

【公報種別】特許法第 17 条の 2 の規定による補正の掲載

【部門区分】第 1 部門第 2 区分

【発行日】平成 23 年 5 月 26 日 (2011.5.26)

【公開番号】特開 2009-526 (P2009-526A)

【公開日】平成 21 年 1 月 8 日 (2009.1.8)

【年通号数】公開・登録公報 2009-001

【出願番号】特願 2008-160829 (P2008-160829)

【国際特許分類】

A 6 1 B 6/03 (2006.01)

【F I】

A 6 1 B 6/03 3 2 0 K

【手続補正書】

【提出日】平成 23 年 4 月 11 日 (2011.4.11)

【手続補正 1】

【補正対象書類名】特許請求の範囲

【補正対象項目名】全文

【補正方法】変更

【補正の内容】

【特許請求の範囲】

【請求項 1】

X 線コンピュータ断層撮影装置におけるファンビームのコリメーションのために 2 つの終端位置間で移動可能な少なくとも 1 つの遮蔽装置 (8) を備え、遮蔽装置 (8) の第 1 の終端位置においてファンビーム (33) を実質的に遮蔽しないコリメータ装置であって、遮蔽装置 (8) の第 2 の終端位置においてファンビーム (33) を半分よりも多く遮蔽するコリメータ装置。

【請求項 2】

遮蔽装置 (8) が 2 つの絞り部材 (12) を含み、各絞り部材 (12) がそれぞれの第 2 の終端位置においてファンビーム (33) を半分よりも多く遮蔽する請求項 1 記載の コリメータ装置。

【請求項 3】

遮蔽装置 (8) が 2 つの絞り部材 (12) を含み、各絞り部材 (12) がそれぞれの第 2 の終端位置においてファンビーム (33) を完全に遮蔽する請求項 1 又は 2 記載のコリメータ装置。

【請求項 4】

遮蔽装置 (8) が前置絞り (14) および移動可能なスリット板 (16) を含み、スリット板 (16) は第 2 の終端位置においてファンビーム (33) を 完全に 遮蔽する請求項 1 記載のコリメータ装置。

【請求項 5】

遮蔽装置 (8) は X 線束により検出すべき対象 (50) の走査過程の開始位置および / または終了位置において 閉じられている 請求項 1 乃至 4 の 1 つに記載のコリメータ装置。

【請求項 6】

遮蔽装置 (8) が直線駆動装置を有する請求項 1 乃至 5 の 1 つに記載のコリメータ装置。

【請求項 7】

直線駆動装置が、スピンドルを有する回転モータ、リニアモータまたはピエゾモータである請求項 6 記載のコリメータ装置。

【請求項 8】

遮蔽装置 (8) の開きが走査過程において変化させられる請求項 1 乃至 7 の 1 つに記載

のコリメータ装置の制御方法。

【請求項 9】

遮蔽装置（８）の開度の変化が連続的に行なわれる請求項 8 記載の方法。

【請求項 10】

遮蔽装置（８）は、走査過程の開始時に閉じられている請求項 8 又は 9 記載の方法。

【請求項 11】

制御装置が走査位置と遮蔽装置（８）の開度との連動を有する請求項 1 乃至 7 の 1 つに記載のコリメータ装置の制御装置。

【請求項 12】

X 線源と、請求項 1 乃至 7 の 1 つに記載のコリメータ装置と、遮蔽装置（８）の開き幅を調節するための制御装置と、X 線源およびコリメータ装置に対向して配置されその間に存在する検査対象（５）に基づいて変化される X 線を検出する X 線検出器と、検査対象（５０）の再構成のための画像再構成装置とを有する X 線による対象の検査のための X 線コンピュータ断層撮影装置。

【請求項 13】

X 線検出器が多列 X 線検出器または平面 X 線検出器である請求項 12 記載の X 線コンピュータ断層撮影装置。

【請求項 14】

画像再構成装置が 3 D 画像再構成装置である請求項 12 又は 13 記載の X 線コンピュータ断層撮影装置。

【手続補正 2】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】0013

【補正方法】変更

【補正の内容】

【0013】

コリメータ装置の制御方法に関する本発明の実施態様は次の通りである。

- ・ 遮蔽装置の開度の変化が連続的に行なわれる（請求項 9）。
- ・ 遮蔽装置は、走査過程の開始時に、狭いファンビームしか対象に入射しないようにほぼ完全に閉じられている（請求項 10）。